

出口戦略に関する尾身会長のご意見

- このワクチンは、重症化を防ぐのが一義的な目的であり、その目的に立ち戻るべき。感染防止効果はまだはっきり分らない。希望者が全員接種すれば集団免疫ができるかどうかは何とも言えない。
- 高齢者の次は、重症化しやすい40代、50代に優先的に接種すべき。但し、自治体の長が20代30代を優先すべきと考えればそれを尊重する。
- 東京でも、高齢者の重症者が少なくなっているのは、ワクチンの効果だと思う。
- 一方、40代、50代も重症化リスクが高く、東京では人工呼吸器を使っている人も多い。

1 横軸（ワクチン接種の進捗）の考え方

- 重症化リスクの減少という視点から、フェーズを設定してはどうか。
 - ・フェーズ1は、高齢者の多くがワクチン2度接種している今の状況。
 - ・フェーズ2は、40代、50代の方々の希望者がほとんど打ち終わった時期。
 - ・フェーズ3は、若者を含め希望者全ての接種が終わった後の期間。ここでは、さらに重症者が減る可能性があるが、どんなに広報をしても、若者の接種率は5割に満たないと考えられ、ある程度の感染者は発生する。
- 横軸（ワクチン接種の進捗）は、接種人数以外に、年齢別の進捗も参考になる。

2 縦軸（医療提供体制に与えるリスク）の考え方

- 縦軸は、重症病床を含め、医療ひっ迫を防ぐという観点の指標を使ったらよい。

3 ワクチン接種の進捗に応じた感染防止対策

- ワクチン接種が進めば、新規感染者数よりも、医療提供体制のひっ迫度を重視するようになってくるのは当然だが、フェーズ2・3でも感染者数は無視していいわけではなく、引き続き、総合的に判断する必要がある。
- 40代、50代の接種は9月には終わると思うが、それまでは、オリンピックや夏休みと重なることもあり、要注意。
- ワクチン接種がすすめば感染をかなり制御できるという前提に立っているが、そういうウイルスではない。感染者の絶対数を抑えるという政策はこれからも続けると同時に、両面作戦で、ワクチン接種と感染対策は感染状況に応じてやっていくことが必要。

4 その他（ワクチンパスポート）

- フェーズ3（若者を含め希望者全ての接種が終わった後）になったときに、市民生活がどうなるかということを示すことが大事。
- たまにしか行かない特別なイベントと、頻繁に行く飲食店と扱いを分けることなども1つの案。例えば、ワクチンパスポート又は検査の陰性証明で、ライブ等の参加を可能にすべきかどうかを議論すべき。
- 導入時期は、フェーズ3に入ってからではないか。それ以前は、若者にまだ接種が進んでおらず、また、緩んだメッセージにつながりかねない。将来の導入の可能性を考えながら、今から、市民も巻き込んで、飲食店の人の意見も聞いて、議論し、準備すべき。

以上